

基準 1 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目① : 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点 1 : 大学の理念・目的の設定

評価の視点 2 : 学部における、学部、学科ごとの、研究科における、専攻ごとの人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

評価の視点 3 : 大学の理念・目的と学部・学科・専攻の目的の連関性

【大学の理念・目的の設定】

大谷大学の歴史は、江戸時代前期の 1665（寛文 5）年、京都東本願寺内に設置された僧侶の教育研究機関であった「学寮」にはじまる。学寮では仏教、とりわけ親鸞によって明らかにされた浄土真宗の思想の研究と教育が行われた。学制に根本的な改革を加えた近代的大学として、1901（明治 34）年には東京巣鴨で「真宗大学」を開校した。初代学長の清沢満之（以下、「清沢」）は、この際の「開校の辞」において次のように宣言している（資料 1-1【ウェブ】）。

本学は他の学校とは異なりまして宗教学校なること、ことに仏教の中において浄土真宗の学場であります。即ち、我々が信奉する本願他力の宗義に基づきまして、我々において最大事件なる自己の信念の確立の上に、その信仰を他に伝える、即ち自信教人信の誠を尽すべき人物を養成するのが、本学の特質であります。

真宗大学は他の大学とは異なって「宗教学校」であり、「仏教の中において浄土真宗の学場」であると示されている。これは、真宗大学が釈尊や親鸞の思想に基づく人間形成の理念及び平等精神によって国民教育の役割を果たそうとする教育研究機関であることを、明確に示すものであった。京都に移された現在の大谷大学はこの精神を継承し、東京での真宗大学開校をもって開学記念の日と定めている。

清沢が「開学の辞」で言う「宗教」は、いわゆる宗教組織としての宗教ではない。東京（帝国）大学とその大学院で宗教哲学を学んだ清沢は、宗教を人間が本来的にもつ心の「性能」であり、「真理を求める精神」と考えた。彼は、人間が「いかに生きるべきか」を求める精神をもつと考え、その精神を「宗教」あるいは「宗教心」と呼んだのである。真宗大学を宗教学校であると宣言した時にも、この意味での宗教を意味していた。そして清沢は真宗大学の特質が「我々において最大事件なる自己の信念の確立の上に、その信仰を他に伝える」ことであるとしている。

この清沢の理念を継承し、敷衍したのが第 3 代学長の佐々木月樵（以下、「佐々木」）である。佐々木は、1925（大正 14）年、大学令によって認可された「大谷大学」の入学宣誓式において「大谷大学樹立の精神」を発表した。佐々木は、ここで大谷大学の使命が「宗

教と教育」を両輪として「真実の人格を作る」ことにあると述べ、仏教教育を中心にしてこれを行うことを次のように確認している（資料 1-2【ウェブ】）。

そもそも、国民の精神的要素は、いふまでもなく宗教と教育とである。然も、教育は常に宗教を俟つて真実の人格を作り、宗教は教育によつてのみ常にその陥り易き所の迷信に陥ることを防ぐのである。…（中略）…本大学が専ら世間の官公私立大学及び各宗大学等とも大にその趣を異にする点は、本大学は先ず以て仏教学を以て諸学の首位とし、また之を中心として教授し研究する所にある。…（中略）…諸子は今後益々本学に於ける人格陶冶の三モットーたる所の、本務遂行、相互敬愛、及び人格純真の三条に心をよせ、各自純真の人間となつていただきたいのである。諸子の学問及び人格の完成が、また本学の完成である。

ここで佐々木の言う「宗教」は、清沢が「開校の辞」で示した内容を指している。そして佐々木は更に、そのような宗教教育が設置された 3 学科（仏教学・哲学・人文学）の専門教育との相互関連のなかで十全な役割を果たすとし、そこに真実の人格形成が実現するとする。そしてこのような理念を「本務遂行、相互敬愛、及び人格純真」の「三モットー」として表現した。つまり大学に学ぶ者が各自の専門の学びを通じて「なすべき本務を遂行」し、「相互に敬愛できる社会の創造を目指」して「自ら純真なる人格の形成する」、その実現を目指すのが大谷大学の理念であり目的であると宣言したのである。

このように本学は、一貫して仏教精神に基づいた人間教育を実践し、人間にかかわる諸学問の研究成果を広く社会に公開してきたが、2018 年度からは、そうした使命をより明確にするために従来の文学部に社会学部と教育学部を加えて 3 学部体制とし、さらに 2021 年度からは、国際学部を加えて 4 学部体制となった。また、本学は大学院を設置しているが、4 学部の各学問分野を包括しうる名称として、2022 年度より文学研究科から人文学研究科へと名称変更を行った。大学及び大学院の目的は本学の理念や学校教育法の趣旨を踏まえて規定しており、例えば大谷大学学則、及び真宗大谷学園寄附行為では「教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、仏教の精神に則り、人格を育成するとともに、仏教並びに人文に関する学術を教授研究し、広く世界文化に貢献すること」と定めている（資料 1-3 第 1 条、資料 1-4 第 1 条、資料 1-5）。また、このような理念に基づく教育を全学的に展開するために、2018 年度から新たに仏教教育センターを開設し、建学の理念の具現化の推進をはかっている。

【学部・学科編成】

上記のとおり、本学は現在、最低修業年限を超えた学科を除いて、大学に 4 学部、大学院に 1 研究科を設置している（資料 1-6 p.21）。具体的には、大学には文学部 6 学科（真宗学科、仏教学科、哲学科、歴史学科、文学科、国際文化学科）、社会学部 2 学科（現代社会学科、コミュニティデザイン学科）、教育学部 1 学科（教育学科）、国際学部 1 学科（国際文化学科）の 4 学部 10 学科を設置している。文学部国際文化学科は、2021 年度から学生募集を停止している。社会学部と教育学部は 2018 年度から、国際学部国際文化学科は 2021 年度

から学生募集を開始している。なお、文学部の社会学科、人文情報学科及び教育・心理学科は2018年度から学生募集を停止し、修業年限を超えた学生のみが在籍している。

大学院には、人文学研究科6専攻（真宗学専攻、仏教学専攻、哲学専攻、仏教文化専攻、国際文化専攻、教育・心理学専攻）を設置している。

本学の大学院は区分制の博士課程で、前期2年の課程を修士課程として取り扱い、後期3年の課程を博士後期課程としているが、教育・心理学専攻のみ修士課程だけを設置している。

これらの学部・学科、研究科（専攻）については、それぞれの教育研究上の目的を学則に定めている。例えば文学部では、「歴史の中で蓄積されてきた多様な文化的所産に学ぶことを通して、人間と世界に関わる根本的な問題を解明し、深く自己を洞察しつつ現代社会を主体的に生きることのできる人物の養成をめざす」と定め（資料1-3 第3条）、哲学科では「人間や世界にかかわる根本的な問題を東西の思想伝統を踏まえつつ考究し、多様かつ柔軟な視点と論理的思考力を培い、現代の諸問題に対処することのできる人物の養成をめざす」と定めている（資料1-3 第3条の2）。

大学院においては、例えば真宗学専攻では「親鸞の根本著作である『教行信証』の読解を中心に据え、その教学思想を研究し、自己自身の求道的関心を通して、広い視野をもって人間の諸問題を探究する人物の育成をめざす」と定め（資料1-4 第5条）、仏教学専攻では「客観的文献研究を重視する方法論によって仏教を学問的に研究し、その知見に基づき、現代社会のさまざまな課題の解明にも寄与する人物の育成をめざす」と定めている（資料1-4 第5条）。

【大学の理念・目的との関連性】

既述のとおり、本学は開学以来の建学の理念を堅持しつつその実現のために、仏教精神に基づいた人間教育を行い、人間にかかわる諸学問の研究成果を広く社会に公開してきた。社会変動によって大学の高等教育機関としての役割が多様化しているが、2021 年度から新たに4学部体制としたことも、仏教精神を根幹に置く教育研究の伝統を（文学部）、より直接的に社会に還元し（社会学部）、人間教育の現場に活用し（教育学部）、国際社会に視野をもって展開する（国際学部）ことを目指したものである。この大学理念との関連において、各学部・学科、研究科（専攻）の目的を定めている。

例えば文学部では「人間と世界に関わる根本的な問題を解明し、（略）主体的に生きる」人物を養成するとし（資料1-3 第3条）、これを受けて真宗学科では「自己を問い、人間を問う」、文学部では「人間と社会への理解力及び洞察力」を養うと定めている（資料1-3 第3条の2）。社会学部では「現代社会の諸課題に向き合うことを通して（略）異なる他者と敬い合いながら生きる世界を構築」する力を養うとし（資料1-3 第3条）、これを受けてコミュニティデザイン学科では「人と人をつなぐ」実践手法を進め（略）「コミュニティ」のこれからの「デザイン」する」人物の養成をめざすと定めている（資料1-3 第3条の2）。

大学院の目的は「仏教並びに人文・社会に関する学術の理論及び応用を教授研究」とし（資料1-4 第1条）、これを受けて、例えば真宗学専攻では「『教行信証』の読解を中心に据え、その教学思想を研究」と定め（資料1-4 第5条第3項）、仏教文化専攻では

「アジア諸地域の文化を歴史学研究と文学研究の両面から解明」すると定める（資料1-4 第5条第3項）など、連関性を持たせて設定している。

【有効性や適切性の判断】

以上のとおり、本学では建学の理念を明確に位置づけ、その理念のもとに大学及び大学院の目的を定め、さらにそれを踏まえて学部・学科、研究科（専攻）の目的を定めており、適切であると判断している。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点1：大学の目的及び学部・学科・専攻の目的の適切な明示

評価の視点2：教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・学科・専攻の目的等の周知及び公表

【目的の明示】

大学及び大学院の目的については、建学の理念や学校教育法の趣旨を踏まえ、それぞれの学則第1条に規定している（資料1-3 第1条、資料1-4 第1条）。また、各学部の目的は大谷大学学則第3条第2項（資料1-3 第3条第2項）に、各学科の目的は同学則第3条の2第2項（資料1-3 第3条の2第2項）に定めている。大学院の各専攻の教育研究目的は、大学院学則第5条第3項にそれぞれ定めている（資料1-4 第5条第3項）。なお、同学則第3条第2項では博士課程の目的を（資料1-4 第3条第2項）、第3条第4項に修士課程の目的を（資料1-4 第3条第4項）、第3条第5項に博士後期課程の目的を定めている（資料1-4 第3条第5項）。

【目的等の周知及び公表】

建学の理念については、毎年学生及び教職員に配付する『学生手帳』に掲載しているほか、人間学Iで自校教育テキスト『大谷大学で学ぶー建学の理念』を用いて全ての新生入生に説明し、周知している。また、大学院においても修士課程の必修科目である「仏教の視点」において、仏教精神を学んでもらうとともに、建学の理念を周知している。さらに、既述のとおり大学Webサイト上で「開校の辞」と「大谷大学樹立の精神」を掲載し、広く学内外に紹介している（資料1-7 pp.6～11、資料1-1【ウェブ】、資料1-2【ウェブ】、基礎要件確認シート1）。また、大学、大学院の目的及び学部・学科、研究科（専攻）の教育研究目的は、教職員には学内ネットワーク上のデータベースで常時確認できる環境を整備するとともに、学生には『履修要項』に記載し配付している（資料1-8、資料1-9）。さらに大学Webサイト上に学則を公表し、学内だけでなく、広く学外にも周知している（資料1-10【ウェブ】、基礎要件確認シート1・2）。

【有効性や適切性の判断】

本学の目的をはじめ、学部・学科、研究科（専攻）の目的については、法令に従って適

切に規程に明示し、冊子体だけでなくネットワークを利用して学内に周知している。また大学 Web サイトを利用して学外にも公表するなど、適切に行っていると判断している。

点検・評価項目③ : 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点 1 : 将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定
・認証評価の結果等を踏まえた中・長期の計画等の策定

【中・長期の計画の設定】

本学の将来を見据えた中・長期計画については、2012 年度以降、第 1 次中長期プラン「グランドデザイン（2012-2021）」（以下、「グランドデザイン」）（資料 1-11【ウェブ】）のもとで、複数学部への組織改編と新教室棟等の本部キャンパス総合整備計画等を中心に、建学の理念の実現に向けて大学改革を進めてきた。また、「Be Real 寄りそう知性」をタグラインとして掲げ、本学における学びの方向を確かめるとともに、現代における本学の役割を明らかにしようとしてきた。さらに、複数学部化後の全学的な仏教教育の推進のため、2018 年に仏教教育センターを設置した（資料 1-13）。

開学 120 周年を迎えた 2021 年には、これまでのグランドデザインを継承し、第 2 次中長期プラン「グランドビジョン 130（2022～2031）」（以下、「グランドビジョン 130」）を公表した。「適切な世界観をもって、未来を、主体的かつ柔軟に生きることのできる人物を育成する」大学となることを謳い、多様な存在が相互に敬愛する社会の実現を目指し、学生・教職員が各自の課題に向き合いながら共に学び合える場としての大谷大学を創出するスタートとした。4 学部となったことを踏まえ、グランドビジョン 130 の表題には「伝統を、社会に開き、未来へつなぐ、そして世界へ」と付している。その根幹は、これまで本学の歴史が蓄積してきた知的資産を、人類の未来へつないでいきたいという願いがある。

このグランドビジョン 130 に含まれる中期計画（第 1 期＝5 年（2022～2026）、第 2 期＝5 年（2027～2031））は、私立学校法改正への対応の観点から大学評価（認証評価）の結果を踏まえた中期計画であり、理事会・評議員会の意見を聴取して審議決定され、大谷大学の 10 年後の将来像と、その実現に向けた計画が示されている（資料 1-12【ウェブ】）。

2022 年度はこのグランドビジョン 130 の初年度として、「教育」「学生支援」「研究」「社会連携」「管理運営」の 5 部門の計画を推進している。教育部門では、学部ごとに目標を立てており、全体としては学生の真に主体的な学びの姿勢を養うことを大切にしている。また、学部ごとの受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を明確にするとともに、それに適合した入試制度の整備を目指す。学生支援部門では、多様な学生を受け入れ、成長を支えることを基本とし、学生が「自分らしくある」と感じられる大学生活の実現を目指している。さらに、学生一人ひとりのニーズに対応したキャリア支援（就職・進学）の充実を図っている。研究部門では、仏教を基盤として、「人間のあり方を問い続ける」研究活動をより一層推進することを目指している。社会連携部門では、地域に開かれた大学として、教育・研究資産を活用した事業をとって、広く社会と連携すると共に地域連携室（コミュ・

ラボ)が中心となり、学内外の諸機関と協働して社会的活動を展開していく。管理運営部門では、教育・研究のさらなる発展のための管理運営体制を強化すると同時に、社会の変化に柔軟かつ適切に対応できる大学となることを目指している。

また本学では、このグランドビジョン 130 をもとにして、単年度の事業計画を策定している(資料 1-14)。ここでグランドビジョン 130 に掲げる計画を詳細にし、各学部・学科、研究科・専攻、事務部局間の調整を図るとともに、予算との調整を行っている。

【有効性や適切性の判断】

以上のとおり、将来を見据えた諸施策の策定と実施については、常に建学の理念の現代的な意義を検証する形で推進してきている。2022 年度から 10 年間のビジョンを示すグランドビジョン 130 がスタートしており、教育研究のみならず大学運営やキャンパスなどの環境整備等、様々な改革が進んでおり、適切であると判断している。

(2) 長所・特色 (意図した成果が見られる(期待できる)事項)

大学の理念・目的に則った教育活動を充実させるため、2018 年度から従来の「文学部」に「社会学部」「教育学部」の 2 学部を加えた 3 学部体制を採った。さらに、2021 年度からは国際学部を加えて 4 学部体制となった。これによって従来の「文学部」1 学部の枠組みを越えた各専門領域に特徴的な教育活動を、これまで以上に社会に開かれた形で展開することが可能となっている。

また、新体制にあわせて建学の理念の具現化を学内のあらゆる場面で強化すべく「仏教教育センター」を 2018 年に開設した。仏教精神に基づく大学風土を醸成する体制が確保され、仏教に基づいた建学の理念をもつ大学としての社会的責任を今後も継続的に果たしていくことが可能となった。センターには真宗学・仏教学を中心とした専任教員が授業開講日には常駐する体制を取っており、学生が各自で学修を進める場であるとともに、学修の相談に応答できる場として開いている。学内には様々な学習支援施設が配置されているが、仏教教育センターも学生たちの居場所の一つとなっている。

(3) 問題点 (改善すべき事項)

既述のとおり、将来を見据えた中長期計画を明確にするために、グランドビジョン 130 に基づき「教育」「学生支援」「研究」「社会連携」「管理運営」の 5 つの部門ごとに方針を策定して事業を推進している。これらの事業は複数部署にまたがった事業となるため、円滑な活動のためには、緊密な連携が必要となる。計画の立案から実施を速やかに推進するためには、学部・研究科や部署といった枠組みを越えて円滑に活動できる環境を整えなくてはならない。

また、私立学校法の改正により、中長期計画は大学評価(認証評価)結果を踏まえて、評議員会の意見を聴取して立案する必要があることや、私立大学ガバナンス・コードへの

準拠が求められていることなど、複数の制度に対応した連動が必要である。加えて、各部門の単年度の事業計画についても、中長期計画に基づいた PDCA サイクルをまわすことが必要である。

中長期計画に基づく事業の実施主体として大学運営会議が諸制度を統合的に掌握して PDCA サイクルを回していかなければならない。大学運営会議の夏季ミーティングや年度末の内部質保証推進に係る報告会において、定期的に事業の進捗の確認を行っており、今後はガバナンス・コードへの準拠の観点など、新たな検証項目も加えて、より総合的な観点から検証することが課題である。これについては大学全体で連携を取りながら進めていく。

(4) 全体のまとめ

本学は 1665 (寛文 5) 年に東本願寺内に創設されて以来 350 年以上にわたって仏教精神に基づいた人間教育を行い、人間にかかわる諸学問の研究成果を広く社会に公開してきた。1901 年の大学開学以来も一貫して理念と理念に基づく教育研究活動を保持してきた。2022 年度以降は、第 2 次中長期プラン「グランドビジョン 130 (2022~2031)」に基づき、変動が著しい社会的状況に柔軟に対応しつつ、仏教的理念を中心とした本学の教育研究活動を充実させる体制を工夫し続けていきたい。